

琉球大学学術リポジトリ

グローバル化の時代におけるラオスの内発的発展
—海外援助を得た3つの村の事例から—

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学 公開日: 2023-03-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: ヴォンサイ, ポーンマニー メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002019660

様式第13号

琉球大学大学院
人文社会科学研究所委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	鈴木 規之	印
副査	稲村 務	印
副査	宮内 久光	印

学位（博士）論文審査の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、学位論文の審査を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学籍番号	学生氏名	VONGXAY PHONEMANY	
人文社会科学研究所	比較地域文化専攻	主指導教員	鈴木 規之
		副指導教員	稲村 務・宮内 久光
成績評価	学位論文	合格	不合格
論文題目	グローバル化の時代におけるラオスの内発的発展 —海外援助を得た3つの村の事例から—		
審査要旨	<p>本論文は海外援助を得たラオスの農村開発の3つの事例の分析により、「Lao Way」の内発的発展の可能性を論じたものである。研究方法は、海外援助を得たヴィエンチャン近郊の2つの農村（リンサン村とターサン村）と遠隔県の農村（カムペードン村）での比較調査で、量的調査と質的調査を行い、国際社会学の視点から実証的に分析したものである。</p> <p>これらの調査では、ラオス政府主導のトップダウン型の開発（リンサン村）、ボトムアップ的な特徴をもつ開発（ターサン村）、公衆衛生や教育など基本的なニーズの向上をプライオリティとする開発（カムペードン村）における課題を明らかにする中で、ボトムアップ的な特徴をもつ開発スタイルが内発的発展のために有効であること、そのためには政府や海外援助などの外部からの「サイドサポート」が大きな役割を果たしていること、村における中間レベルのアクターが「Lao Way」をより実践可能な形で叶えるために重要であることを明らかにした。そして、社会主義国のラオスであってもボトムアップ式の開発方法を取り入れることによって、持続可能な内発的発展となる可能性が高いと結論づけた。</p> <p>本審査会は学位論文審査に関する評価基準について（申合せ）に基づき本論文を審査した。本論文は実証的研究の困難なラオスにおいて「内発的発展の可能性」という明確な問題意識から「Lao Way」のボトムアップ型のコミュニティ開発の可能性を示唆した独創的な試みで論証過程にも説得力があり、日本語で書かれたため表現・引用の適切性に若干の課題は残るものの、総合的に博士論文の水準に達していると審査委員会では一致して判断した。</p>		

様式第14号

琉球大学大学院
人文社会科学研究科委員会 殿

博士論文審査委員会

主査	鈴木 規之	印
副査	稲村 務	印
副査	宮内 久光	印

最終試験の結果報告書

このたび、博士論文審査委員会として、最終試験を終了しましたので、その結果について、下記の通り報告します。

記

学生番号	■■■■■	学生氏名	VONGXAY PHONEMANY
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻		主指導教員	鈴木 規之
		副指導教員	稲村 務・宮内 久光
成績評価	最終試験	合格	不合格
結果要旨	<p>副査稲村務の総括のもとで、申請のあった博士論文の内容とそれに関連する授業科目について口頭による最終試験を行った。本論文題目は、「グローバル化の時代におけるラオスの内発的発展—海外援助を得た3つの村の事例から—」である。以下の三点を軸に試験を行った。</p> <p>まず、口頭試問での関連質問を行い、本論文が学位の水準に達していることを確認した。次に、本論文に関連する基礎的な専門知識や自らの論文の研究上の位置づけを問い、研究上の貢献があったことを確認した。そして、本論文で取り上げた研究分野に係る授業科目、「アジア社会学」「アジア文化人類学」などの視点から、学位に相応しい研究能力とその学識を有していることを確認した。</p> <p>以上の点から、本審査委員会は、本論文に加え、その分野における学位の水準に達していると認め、最終試験に合格と判断した。</p>		